



漢事始

目

1 3
1917
4



3
1917
4

中華事始卷之四目錄

飯一

飲食門第九

粥二

饅三

糗四

饅頭五

餅六

湯餅七

不托八

炙九

炮十

鹽十一

醴酪十二

酒十三

茶十四

藏氷十五

砂糖十六

附穀食十七

熟食十八

人事門第十

耕十九

牛耕二十

種二十一

獵二十二

昭和十九年
三月二日
小田幸吉
吉田友大
即此書贈

漁二十三 釣二十四 放彈二十五 圍碁二十六

陸博二十七 象戲二十八 蹴鞠二十九 鬪鷄三十

鬪草三十一 角抵三十二 俳優三十三 傀儡三十四

秋千三十五 童謡三十六 沐浴三十七 誓三十八

殉死三十九 織四十

文教門第十一

學四十一 書契四十二 文字四十三 書八體四十四

書八體圖四十五 八卦四十六 著書四十七 史四十八

切字四十九 音韻五十 詩五十一 聯句五十二

唱和五十三 次韻五十四 詞賦五十五 印板五十六

進士五十七 貢士五十八

附 孔子廟五十九 謚孔子六十

中華事始卷之四目錄終

飲食門 第九

飯イ
一

周書シヤシヨに云クハタテイ、黃帝コクは穀イヒを煮イヒて飯イヒを食イヒふ。

事物紀原
下

粥カユ
二

周書の云。炎帝始て穀と烹^ニく、粥^カくを

餅モキヒ
三

月礼よ。棋餌粉餐とのせそり。鄭玄がほろろ云。

四
校千一丰
觔力一名
黍言

フットキ
 風土記も云。仲夏端午日。菰葉とゆく。粘米飯に
 クリナツメ
 つも。栗棗の灰汁とゆく。毛と煮て熟せしめ。
 クラ
 ろれと吟ふ。陰陽包裹とる。此象とれと云ふ。
 サイカイキ
 又母陽紀も云。屈原五月五日汨羅に投じて死せり。建國の人毛とわらふ。毛は日よ

ちりぬ。筒とみく米と貯へ寄れ。今市俗は米
 と新しき竹筒の中へ蒸して是と食ふ。是は
 サウトラ チキキ 装肖と云。糗はもきくも也。又為糗とも云。異苑は
 ちキキ クツゲン 糗を屈原の姉の作りし アチ ツラ
 糗の事。凡土記の信成よりとも通し。くこ志
 サイジ モニ く果時門はあまを端より作らば。うに略と。
ロニ

饅頭マンダリン
五

諸葛武侯より一里也。

餅コギモチ
六

我^{セニ}必^{コラ}の^{コラ}時^{コラ}より^{コラ}〜^{コラ}も^{コラ}あ^{コラ}ん

湯餅^{サフメン} 七

魏^ギ晋^シの代^シより。世々^{セセ}湯餅^{サフメン}と^{コト}あ^{コラ}ひ食^シふ。今^{イマ}は^{イマ}索餅^{サクヘイ}も也^モ。洛林^{ガリン}よ。魏^ギ文^シ帝^{テイ}。何晏^{カアン}よ。魏^ギ湯餅^{サフメン}と^{コト}賜^{タマフ}ふ。あ^{コラ}は。則^{ソレ}も^モ漢^{カン}魏^キれ^ルる^{コト}あ^{コラ}る^{コト}。

不托^{タドン} 八

魏^キの世^セも。湯餅^{サフメン}と^{コト}食^シふ。晋^シより^{コラ}の^{コラ}〜^{コラ}不托^{タドン}の^{コラ}あり。あ^{コラ}れ^ルハ不托^{タドン}ハ湯餅^{サフメン}よ^{コラ}る^{コト}て^{コラ}る^{コト}あ^{コラ}ん。

炙^{アブリモノ} 九

周^{シュ}書^コの云^{クハウ}。帝^{テイ}始^シく^{コラ}肉^{ニク}と^{コト}燔^{ヤキ}て^{コラ}炙^{アブリモノ}〜^{コラ}始^シく^{コラ}

炮^{フミヤキ} 十

古^コ史^シ考^{カウ}よ^{コラ}云^{クハウ}。燔^{スイジンシ}人^{ジン}氏^シ。火^ヒ以^イ燔^{ヤキ}人^{ジン}始^シく^{コラ}肉^{ニク}と^{コト}燔^{ヤキ}て^{コラ}炙^{アブリモノ}〜^{コラ}始^シく^{コラ}

鹽^{イホ} 十一

世^セ本^ホよ^{コラ}云^{クハウ}。宿沙^{シュカ}氏^シ海^{カイ}の^{コラ}代^シ。黃^{ワウ}て^{コラ}燔^{ヤキ}て^{コラ}炙^{アブリモノ}〜^{コラ}始^シく^{コラ}。宋^{ソウ}襄^{キウ}が^{コラ}云^{クハウ}。宿沙^{シュカ}衛^{エイ}ハ^{コラ}齊^{サイ}れ^ル靈^{レイ}云^{クハウ}の^{コラ}多^タ也^ヤ。砂^サの^{コラ}國^{クニ}海^{カイ}よ^{コラ}る^{コト}。あ^{コラ}れ^ル人^{ジン}魚^{イサ}塩^{シホ}の^{コラ}利^リ成^{セイ}す^{コラ}人^{ジン}。或^{アル}云^{クハウ}宿沙^{シュカ}氏^シハ^{コラ}帝^{テイ}乃^ノ時^シの^{コラ}侯^{コウ}也^ヤ。唐^{タウ}款^{カン}より^{コラ}云^{クハウ}。い^{コラ}あ^{コラ}〜^{コラ}人^{ジン}宿沙^{シュカ}初^{シュ}

漢學女老

十二

世ニワウ。イダ
火王来

後賢の

酸^{レイラク}と作りとわり。志

奉紀

酒サケ
十二

シヨクハク
稷
モツテ
以

狄倭酒

狄依ハ帝女。

轉
卷

秋後酒

五篇

陶淵明集述酒法

調色と。黄

二の八帝

養氣令液流通

あられと帝

氏ハもや劉累リウレイより出。商シヤウの時ハ豕韋氏シイより。
武王トコシと杜ホウと封じ。國ツクヘと傳トハクく杜伯トハクより至。
宣王センワウ此より又滅せし時。その子孫セン晋ハナリより奔。
て。遂に杜と改く氏とに。姓色ハ杜氏ハ周の
時小姫コタヨフよりあり。その後系ハ杜康カモスと云ふものあり。
よく。昔酒ヨクサナと釀カモスを以て。名氏世ハ得エる所
の。ハ人姫ヒナリと酒と傳ヒナリると云ハ姓也。堯セウ酒子鍾
とつふ。ハもや孔叢子コウソウシより。姓と云
委巷イカウハ説セツなき道ハねと云ふ。又ハ夢シハ實シ

帝テイより傳ツクるといへども。を世にわけて附ツキを
龍リウ相ソウあり又某ニヤウの生ナマずる所は名ナおほ漢カンの時。名
付一地方を成ナゲルたり。ねえハ。必カナラシム炎帝エンテイれ書シコ
と云へ。次タビ内經ネイキョウの黃帝ワウトウの時。と申イッといふも
そ又事ズニヤウ考カンカウりよ。六國リクコク秦シン漢カンたる。其時そのときなり也。
是こゝろよりいふことハ。炎帝エンテイ黄帝ワウトウれ時とき小。然しかて
酒サケわりと云もねえ。いふこと。龍リウ相ソウハ。酒
を果ハミして飛スレあつた。いとせんや。吊ヒキかりよな
いし。一イチ智チ者ニヤそれをして。天下テノカ後世ゴセイこれ

循てよく廢れり。然るに聖人も人代同
 く好む所代ものと候と郊廟享燕より用て
 以て礼の常とあらへり。いふく飲食する
 時亦礼て飲食と候。一而人代を分る
 そ始く酒ははくも人との。もて酒の
 こひて礼とてやまふといふは時々の
 あり。よりと事得たり。さかたへ。好む
 故とあふ。ちよあつ世に不の酒儀の礼を
 わり。あふくに裁たり。周ても人代漢書食

貨志云酒ハ天ノ養祿帝王不以顯養天下
 祀祈福扶衰養疾百礼之會此酒不行又云
 酒百業之長これ皆酒の能はり。れも代也。
 休は酒ハ賓主飲と合。親疎情を結。一。妻
 助け。病は養ふの具。結を破り。業を休る。乃
 相成。あふ少飲けり。外は酒通。一。氣は壯
 一。甚人よ益あり。多く飲けり。外は火は助
 疾とせり。て。大よ人と傷。且久く酒と飲
 時ハ。神はそとあひ。歩は。候と。あふ。

且。酒ハ大熱有毒とあるせり。あまのこな
 ち。酩酊^{メイテイ}甚しむ時ハ。謹直^{キンシヨク}の人モ愛^{ヒミ}んで狂^{キウ}
 ぶ。街^{ヨヒタ}とナリ。志^シ高^コハ。賢^{ケン}ハ。時^{トキ}ハ。廢^{ハイ}。
 と失^{ウシ}ひ。そ。職^{シヨク}業^{ケウ}ハ。怠^{タイ}り。財^{サイ}と。家^カと。亡^{ホロボ}じ。
 或^{レバ}破^ヤハ。新^{シン}ハ。一^{イチ}ハ。云^{イフ}ま。き^キや。と。い^イひ。と。い^イふ。
 一^{イチ}と。い^イふ。と。あ^ア。身^ミ乃^ノわ。さ。り。ひ。と。ま。ね。く。と。
 ぬ^ヌ。そ。醜^{シウ}態^{タイ}。俾^ヒり。極^{キョク}の。時^{トキ}ハ。善^{サイ}學^{ガク}。乃^ノま。あ。り。
 姍^{シヨウ}笑^{シャウ}し。れ。親^{シン}戚^{セキ}ハ。忌^{イミ}め。く。ま。あ。る。人^{ジン}酒^{シュ}と。称^{セウ}。
 て。狂^{キウ}業^{ケウ}と。い^イひ。け。ん。ハ。宜^イか。ず。や。北^{ホク}窓^{ソウ}。隱^{イン}言^{ゴン}ハ。

あるせり。ハ陸^{リク}相^{シャウ}展^{テン}と云^{イフ}人^{ジン}ハ。一^{イチ}乃^ノ士^シ人^{ジン}ま。あ。る。と。い^イふ。
 一^{イチ}に。初^{ハツ}て。此^{コノ}對^{タイ}面^{メン}あ。れ。と。と。て。酒^{シュ}ハ。出^デ。て。と。と。て。
 ち。あ。り。と。い^イふ。か。の。士^シ人^{ジン}。さ。う。さ。う。ハ。酒^{シュ}と。い^イふ。と。い^イふ。と。い^イふ。
 隣^{リン}一^{イチ}け。と。ハ。陸^{リク}相^{シャウ}展^{テン}と。い^イふ。と。い^イふ。と。い^イふ。と。い^イふ。
 く。な。さ。る。ハ。已^{スデニ}校^{コウ}分^{ブン}ナ。リ。さ。う。さ。う。ハ。蓋^{サイ}平^{ヘイ}生^{セイ}。
 人^{ジン}ハ。悔^{クワイ}吝^{キン}ナ。カ。あ。る。中^{ナカ}ハ。酒^{シュ}乃^ノ困^{コン}と。い^イふ。と。い^イふ。と。い^イふ。
 ち。已^{スデニ}ハ。事^{コト}ハ。減^{ゲン}と。い^イふ。と。い^イふ。と。い^イふ。と。い^イふ。
 く。さ。る。と。い^イふ。と。い^イふ。と。い^イふ。と。い^イふ。と。い^イふ。と。い^イふ。
 聖^{セイ}人^{ジン}も。さ。う。と。い^イふ。と。い^イふ。と。い^イふ。と。い^イふ。と。い^イふ。と。い^イふ。

祀乃佐^{ソナ}。地は薩と神代^{シニ}。一てモ馨香^{ケイカウ}
 下^{シモ}又遠す所とね。これと陰^{イン}は求^{モトム}此^キ也^ヤ。
 且そのよく陽^{ヤウ}と表^{ヤシチ}と以^{ヨリ}く成^{ホツ}る親^{ヲク}と成^{ホツ}し
 ると表^{ヤシチ}ふ。又よく飲^{ヨロコビ}食^アするを以^{ヨリ}く成^{ホツ}るこ
 うに冠^{クラシヨシ}腎^{ケン}乃^ノ礼^{レイ}賓^{ヒン}客^{カク}乃^ノ會^{カイ}小^{モナヒ}司^シ多^タ下^ゲ。去^サる道^{ミチ}
 大賓主^{ヒンシュ}百^{ヒャク}おして酒^{サケ}三^{サン}杯^{ハイ}と云^{イハレ}。又終^{ヒヨモス}自^{サケ}酒^{サケ}氏^シ飲^{キン}
 て鼓^{ヨフ}ゆるといふとして。未^{イマ}嘗^{マカツ}て過^{スグハイン}飲^{キン}ふ及^キん人^{ジン}志^シ
 うも大^ワ若^{ナニ}併^{ヨク}ハ怨^{コンラス}氏^シ懲^{チョウ}ゆといふとしてや
 とそれハ盃^{サカウネ}を舉^{アゲ}て年^{ヘイセイ}中^{チュウ}大^ワ懷^{ワイ}と云^{イハレ}。可^カか

死シはかなしカてテ成ナむム事コトなく。沈チン酸スイは及ツキて夢ツミ度タビを
 失ウシふヘラフ。凡ソロ人ニは病ヤミと酒サケよりテ來キるコトの多オホ
 一ヒト。竊ニソカニはスるヲ。多オホく酒サケは飲ノミめク穀コクを食クラフもの
 一ヒト。毎マシく來キこイ。さシもハ魚イシヨク慾ヨクハ人ヒトは傷ケルゆハ
 一ヒト。酒サケ毒ドクハ人ヒト中ナカにニハ知チるコト。魚イシヨク慾ヨク
 をタツ断タツつハハさシにニがガくク。酒サケは飲ノミめクハ
 一ヒト。難カタし。そソうウく人ヒトを害ガイすコトをチ知チるコト。
 一ヒト。是コソを好ヨミて止ヤム時トキなく。命イシチと失ウシふコトハ多オホく。揮ヒキるコトの
 一ヒト。類タガヒは人ヒト。天下トキミハ富トミもモ易カンにニ知チるコト。

と。そぐ一付の快^{コノヨキ}と。じとほ^{コノヨキ}て。父母^イを
 祈^イる。所^{コノヨリ}に。成^ガ怒^{ヨク}。又^イ但^イす。所^{コノヨリ}に。むげり
 漢^イも。き^{コノヨリ}す。や。馬^{ウマ}の首^{シユ}酒^{シユ}と。み
 ぬ^イひ。後^{コノヨリ}世^セ酒^{シユ}の禍^ワぬ^イん。むげり。せ
 め^イ。聖^{セイ}意^イなり。け^{コノヨリ}こ^{コノヨリ}い。む^イと。こ^{コノヨリ}い。む^イと。あ
 ーな。

茶 十四

茶^チ飲^ム。或^{アル}流^{リウ}。八^ハ梁^{リョウ}天^{テン}監^{カン}。武^ブ帝^{テイ}の^{コノヨリ}以^イより始^{ハジ}
 け^イ。其^{コノヨリ}の^{コノヨリ}洛^{ラク}陽^{ヤウ}伽^ガ監^{カン}記^キに。及^イく。其^{コノヨリ}の^{コノヨリ}志^シを^イた

漢^{ハン}なり。揚^{ヤウ}と。其^{コノヨリ}の^{コノヨリ}志^シを^イた。孫^{ソン}皓^{カウ}富^フ客^{キヤク}
 と。後^{コノヨリ}に。毎^{ゴト}日^{ニチ}飲^ム。と。云^{イハ}す。其^{コノヨリ}の^{コノヨリ}志^シを^イた。
 ら。其^{コノヨリ}の^{コノヨリ}志^シを^イた。酒^{サケ}飲^ム。率^{ソツ}七^{シチ}事^{コト}以^イ
 て。後^{コノヨリ}に。悉^{シツ}く。口^{コノヨリ}に。入^イる。と。云^{イハ}す。其^{コノヨリ}の^{コノヨリ}志^シを^イた。
 其^{コノヨリ}の^{コノヨリ}志^シを^イた。酒^{サケ}飲^ム。率^{ソツ}七^{シチ}事^{コト}以^イ
 と。其^{コノヨリ}の^{コノヨリ}志^シを^イた。酒^{サケ}飲^ム。率^{ソツ}七^{シチ}事^{コト}以^イ
 こ。其^{コノヨリ}の^{コノヨリ}志^シを^イた。酒^{サケ}飲^ム。率^{ソツ}七^{シチ}事^{コト}以^イ
 後^{コノヨリ}世^セの^{コノヨリ}志^シを^イた。南^{ナン}窓^{サウ}記^キ漢^{カン}
 楊^{ヤウ}す。其^{コノヨリ}の^{コノヨリ}志^シを^イた。南^{ナン}窓^{サウ}記^キ漢^{カン}

桑を飲ムす。呉ゴの韋曜イヨウより飲ムふとん。志シるは
 晏アシ子シ若ヤと食クふ。晏アシ子シ去キ秋シウは死シす。漢カン王ワウ
 褒ホウ武ブ都トは買カフ茶チャ乃ナ潰ゴれし。之シ必ヒツより茶チャを
 飲ムす。これを申ウケる。久キウし。桑サ經キウふ。桑サ飲インす
 海シ神シノ農ノウ氏シよりおろり。魯ロ周シウ云クより世キコはゆかし。
 亦セ晏アシ嬰エイ漢カン楊ヤウ雄ユウ。司シ馬バ相サウ如ジヨ。吳ゴ韋イ曜ヨウ。晋シ乃ノ劉リウ琨コン張チャウ
 載サイ遠エン祖ソ納ノウ謝シヤ安アン。左サ思シ。阮トモ瞻カラを飲ムりとうをり。
 桑サ乃カニ盛シふ世ラコチは終シつる。晋シ乃ハニ終シる。し
 家カ礼レイ考カウ阮シヤウより死シす。桑サを飲ムす。かゝる

厨下とて己ぬ久し。あつとてこれとこ
 とは貴殿をいふ。もろくもつとて
 我より及へるもあさけつ煙ハをてふあ
 ひさなり。夕映しきにあてた人
 も業を飲むハ服ぬきつて外し。
 あつとて考へて今世は甚業にめめ
 教人の朝と夕とむむもく。そ飲不斗に
 と又海し。他は左怒るそ害をかされん。
 さのこも毒ありとて希へと。宋蕤軒が業後

めゑ煩ハシと除ノキ臍シと去サル切コウあはせ且ナ柔ニヤあく
 ぐらスナぬスうスくスハ。あスれハ臍シ中チウに人ニを換ソす
 うスらスうスすス。あスれハ臍シ中チウに人ニを換ソす
 直チ小ジ腎ケイ腰イ入イ。且ナ脾胃ヒイ冷ヒヤ。臍シ臍シとスく
 室イ入イ。地チがス。そスうス飲食インシヨクして飯コキチ濃ニ茶チり
 てはス飲ス時シは。とてふ煩ハシ臍シと去サル脾胃ヒイ
 害カイせス。且ナ味ニ苦ニより。諸ヨク齒ハと去サル。蟲ムシと
 消ケ火カけスれハゆク柔ニヤ火カ飲スるス。あスれハ臍シ中チウに人ニを換ソす
 古コ人ニ若ニヤ火カ呼ヨミてス。奴ラクヌといフ。又マタとスれハとス。臍シ中チウに人ニを換ソす

て也リ。李リ時シ珍チンがセツ。臍シ中チウに人ニを換ソす
 めメとてよス。とてハ。脾胃ヒイハカとス。あスれハ臍シ中チウに人ニを換ソす
 又マタ。元ゲン氣キ喘セン小ソ換ソ。土ツのミ火カ制セイせス。精セイ血ケツ滯チは
 虚キョして疼タシ飲イン痞ヒ脹フ。痿シ痺ヒ。苦ク瘦ソウ。嘔ウ逆ギャク。同ドウ写シャ。腹フツ痛ツム。
 疝セン瘕カハセ病ビョウとス。瘕カハセ病ビョウとス。瘕カハセ病ビョウとス。
 て瘕カハセ病ビョウとス。瘕カハセ病ビョウとス。瘕カハセ病ビョウとス。
 と止ヤム時シなくとも瘕カハセ病ビョウとス。瘕カハセ病ビョウとス。
 く割セして過クハ飲インとス。瘕カハセ病ビョウとス。瘕カハセ病ビョウとス。

花水 十八

...

礼を倭人求む紙幣を果つ十二月。少と云

らゝめくも^{ヒミロ}倭とらよと。海女^{チウ}倭^{レウ}ハ^{ロムロ}少室也。

是と云ふは。消新と云ふ。ひて是と云ふ。

りて。こもと。たつり。八日。立。少。少。と。さ。あ。

西^{セイリク}陸^{リク}あり。時。邪^ミふ^ミ歟^ミと^ミ乞^ミと^ミ也^ミ民^ミと^ミなり
事物
紀原

砂糖 十六

中にもやうのあり。唐太宗の時外にも

五、ツル史人トク又同云。乞何物ぞ

使ス茶チをカ其カニ蔗サ汁シとセ煮ニてセ之シをカ清シくス乾カすス

と夢ひぬて美しけるよ所より茶碗みと

いと乞ふて中必よ姦く砂糖サツドウわり学老

紀序

附
穀食
人の穀食と
十七

賈^カ誼^キガ雜^ザ沔^ツニ曰^ハ神^シ農^ノ百^{ハク}草^{ソウ}ノ實^ミヲ^ニ知^ルル^ニ民^{タチ}ノ

可
 穀を食クハふ。
 藝文類聚ケイモンルイジュ云。社農乃時。

始く穀を食ふ。燒石乃とふ。氣熟せしめ。

飯を喰ふ。事物記原
下曰

人事門 第十

耕 十九

周書云。神農の時天子り粟ある。帝耕カキして
 られと云。黃帝に傳ふ云。帝昇ノボリて天子を
 かふ。地神チニ草木を秋ケニ。播種ハクシユ乃初リ以述グ。
 是く廣く耕と云ふ也。ハカ。耕ハ冬帝り
 一ハ事也。紀元
 牛耕 二十

山海經云。后稷乃孫と叔均と云。この人始く

耕と云。後漢云。牛犁と用也。それと云
 兄也。耕ハ牛以用也。叔均より云。後

種 二十一

淮南子云。神農初て民を穀と播ホドコ。
 ゆる。以て。帝王世紀云。帝始て天
 下を五穀と耕。種く食ふ。以て。故云。故云
 黃帝播種乃初以述。

獵 二十二

尸子云。宓犧乃世。天下を獸を獵ふ。故云。人

あめハ世^{チセイ}も乱^{ラン}と云^スも世^コ古^キよりあ^ハい
且^ミ民間^{ミンカン}ハ患^{クハ}難^{ナン}と似^ニひあ^ハる時^{トキ}ハあ^ハる所^{トコロ}に
吾^ガ政^{セイ}と形^{カタ}助^{スベ}たかりん^ニ。

漁サ三

尸^シ子^シも云^フ燧^{スエ}人^{ジン}民^{ミン}乃^ハ世^ニ也^{ナリ}。天下^{テンカ}あ^ハる一^{イチ}。これよ^ハよ
ア^アと人^ニあ^ハる漁^{スナドリ}ハ以^モて也^{ナリ}。易^{エキ}繫^{ケン}辭^ジリ。包^{ハウ}
犧^キ氏^シ乃^ハ下^カよ王^{ワウ}を時^{トキ}繩^ネを結^{ムス}く網^{ミナモ}罟^コと^ス。
以^モて個^{ツダ}一^{イチ}以^モて漁^{スナドリ}す也^{ナリ}。あ^ハる一^{イチ}ハ漁^{スナドリ}も大^{ダイ}異^イなり
始^{ハジ}に

釣サ四

易^{エキ}ハ大^{ダイ}異^イ以^モて個^{ツダ}一^{イチ}。以^モて漁^{スナドリ}とあり。釣^{ツリ}又^{マタ}
漁^{スナドリ}乃^ハすなれ^ニ。あ^ハる時^{トキ}よりあ^ハる漁^{スナドリ}なり。

放弾サ五

歐^ウ陽^{ヤウ}洵^{ジュン}ガ藝^{ゲイ}文^{モン}類^{ライ}聚^{ジュ}も云^フ。あ^ハる人^{ヒト}死^シす時^{トキ}、未^ミ棺^{カン}擲^{チク}
乃^ハまうけ殯^{ヒン}葬^{サウ}する也^{ナリ}。あ^ハる屍^{シカバ子}を以^モて以^モて
白^チ茅^{カヤ}を以^モて以^モて。これ^ノ中^{ナカ}也^{ナリ}。孝^{コウ}子^シも親^{シン}
の屍^{シカバ子}と禽^{トリ}獸^{ケダモノ}共^ニ食^{クラ}ふと云^フ。あ^ハる也^{ナリ}。あ^ハる殯^{ヒン}葬^{サウ}を能^{タシ}く
以^モてこれとあり。

圍碁 廿六

枰物志云。堯圍碁と伝ふ。孟子母朱より人
あり。或曰。舜より子。商均乃愚か。ゆと云ふ。堯
圍碁。伝ふ。これよりある。孟子智あり。あ
る。孟子よりせん。

愚拙と云ふ。堯舜の大賢あり。不肖れども
彼よりある。これよりある。義方と云ふ。ある。孟子
を教ふ。孟子は。人より伝ふ。孟子は。ひまへ。
ある。孟子は。人より益あり。枰碁乃道。伝ふ。

これよりある。人より伝ふ。孟子は。ひまへ。
ある。孟子は。人より益あり。枰碁乃道。伝ふ。
の。伝ふ。伝ふ。これよりある。人より伝ふ。
史。伝ふ。伝ふ。これよりある。人より伝ふ。
も。伝ふ。伝ふ。これよりある。人より伝ふ。
へ。伝ふ。伝ふ。これよりある。人より伝ふ。

陸博 廿七

伝文云。いみ。鳥曹氏。伝ふ。伝ふ。伝ふ。

廊氏カミケツメの金距カミケツメをけくとり。これとおせんげ哉タヘ
乃姦カミケツメの周よりおせんげ！

鬪草クサアヤ
一

ソウリン
 宗慄が
 ケイワ
 荊楚
 サイジキ
 采
 キソフ
 時元
 ハクサウ
 によ競て
 百草
 シンキノガ
 紙燭
 除くと。
 ぬにせよ
 カヤ
 尉
 アハセ
 タハフシ
 草の
 哉あり。

角スマフ 觥
凡二

今のお攢也。^{スマフ}漢武故事^{カンブコジ}よ云。角觝^{スマフ}とむう六國
乃ぜふ化^{シキ}る下。史記^{シキ}よ。秦二世^{シンノジ}世耳泉宮^{セイカン}ありて。

スー
 角觥となり樂スレむ。注チウよえ。就セシ必ゴク此コ時トキ。まマく武
 カウ
 と備ホと。或ケラシ樂ラク派ハなり。てお備ホコす。そチカラ力カと角カハ志シ
 ツキタハカハ
 てみくお觥ツキタハカハ寫アタしむ。あカンくお南フる也。漢テイ武帝テイは
 コ
 と好コめり。

ワザヲキ
徕優
目なりて
の如く
羨樂
サレカク
此之

列女傳レツジョデよ云カ。夏ケツ乃ワ樂王レイギとてセウ。礼義ユウとすケてユウ。倡優セウユウ條チュウ儒ジュと求モトメてキ。奇偉キイ壯哉タウサイとケなりケ。志シのユウ過ケバケ。外ケ優ユウ戲ケら夏カの世ヨにス来スよス出スをスりス。此コノ優ユウ戲ケ乃ケ始ハジ也ヤ。

鬼クイ 偶ライ
テケルホウ
窟窿子。魁礪。
傀儡並に月。

列子^レ子^ニ周穆王^ノの時^ニ。巧人^ニ偃^ニ作^ニと云^フ所の所^ニ
 已^ニ人^ニと化^シりて^ニ。歌^カ舞^ブせ^ニ。王^ハ盛^ニ姫^ニと^ニ
 り^ニこれと^ニる^ニ。とて^ニ不^ニ寐^ニ終^ニて^ニ。本^ニ人^ニ固^ニ成^ニ瞬^ニ
 して^ニ。其^ノ心^ハ主^ノの^ニた^ニを^ニ振^ニく^ニ。王^ハ怒^ニく^ニ偃^ニ然^ニ
 と^ニ殺^ニん^ニと^ニ。偃^ニ作^ニお^ニそれ^ニく^ニそれと^ニあり^ニ
 人^ニ。皆^ニ丹^ニ墨^ニ膠^ニ漆^ニとて^ニ洗^ニり^ニ。一^ニもの^ニ也^ニと^ニあり^ニ
 と^ニう^ニて^ニ。う^ニく^ニハ^ニ。鬼^ニ偶^ニの^ニ始^ニと^ニあり^ニ
 秋^ニ千^ニ又^ニ鞦^ニ韆^ニ 秋^ニ又^ニ 秋^ニ又^ニ
 右^ニ今^ニ藝^ニ術^ニ圖^ニと^ニ云^フ。右^ニ方^ニ乃^ニ戎^ニ狄^ニそれと^ニを^ニて^ニ

軒^ニ越^ニれ^ニ然^ニと^ニを^ニす^ニ。寒^ニ食^ニの^ニ節^ニと^ニい^ニふ^ニ。是^ニ
 と^ニあり^ニ。後^ニ日^ニ中^ニ必^ニれ^ニ女^ニ子^ニそれと^ニを^ニす^ニ。右^ニ方^ニ
 繩^ニと^ニく^ニ木^ニと^ニ然^ニて^ニ架^ニ紙^ニ立^ニ。それと^ニ和^ニ子^ニと^ニ云^フ
 或^ニ云^フ。一^ニ心^ニ戎^ニの^ニ戲^ニ也^ニ。并^ニ植^ニ云^フ。右^ニ方^ニ乃^ニ戎^ニと^ニ云^フ
 ち^ニ一^ニと^ニり^ニ。け^ニ就^ニ始^ニく^ニ中^ニ必^ニれ^ニと^ニあり^ニ

童謡 秋六

列^ニ子^ニの^ニ云^フ。竟^ニ微^ニ服^ニして^ニ康^ニ衢^ニと^ニ云^フ。童^ニ謡^ニと^ニ云^フ
 立^ニ我^ニ衆^ニ民^ニ。莫^ニ匪^ニ尔^ニ極^ニと^ニ云^フ。右^ニ方^ニ乃^ニ童^ニ謡^ニと^ニ云^フ
 竟^ニ乃^ニ時^ニり^ニと^ニて^ニ不^ニ然^ニり

ボクヨク
沐浴
卅七

カニアラヒユアラ

世かゝる云 秦穆公はとなく 呂氏を杖と云ふ一及

八ボクはすゝみ。二を八カミ髪とニギハ握る
 史記の不用云

舟^{フナ}の^レ時^{トキ}も^ハあり
 秦^シ穆^ニ乙^ニも^ハあり
 西^ニの^レり^ハ

あひ

千力七
誓
成
八

カノ
チイワウ

工
3

コ
レ

コモヤウ

イ
フ

夏啓王北时有扈氏又行と威海と陪王たり

草^{カニ}地^チを^{タヘカヒ}裁^キく^{ホロボ}これ^{ヨソ}と^{キニタイ}己^{キヲウ}以^ヲて^ヲ釣^ヲ臺^ヲは^ヲ享^ヲし^ヲ

て。甘誓と作り。乞誓乃始。古今原

今和俗^{ワノク}と^{カヒ}誓^{チカヒ}と^{カヒ}好^{カヒ}く^{カヒ}も^{カヒ}紙^{カヒ}紙^{カヒ}と^{カヒ}も^{カヒ}也^{カヒ}

朽^コり血^チを^チき^チて^チこれ^チに^チけ^チる^チ

と。按^ニする。史^シ記^キ乃^チ陈^ニ飯^ヨが傳^テふ。张^{チヤ}敖^{オウ}蓄^カ蓄^ミを按^ニ

出血^ス 淫^{フチウ}之。枳^シ 芩^シ 以^テ 誅^シ 之^イ。妻^{アラハ} 之^ヲ。

是が乃月納誓と云なり。是今和俗ニ誓と云

すゝ類ルイせふなり。

九世
殉死

人死す時。世の人を救へて其墓に任じしむ
也。今俗は死後時を争ふなり。

秦武公二十年
シシブコウ
 弑公のふ武公卒せり。始く人とな

て死シに後シカハひしめらゆ。死シに後シカハひしむ六十六人

とくしとや史記

始と備と仰るものい。それ故に人の。その人
は形として。それを判る。あつりと孔子も
の。さうり。備と人。葬と後人。来偶人也。古れ
葬よ。いふ。成て人の。形。あつて。それ。従
衛と人。後衛と。いふ。死者は。後り。め。名け。く。霊
と云。その。あり。さ。路人の。形。いふ。さ。そ。也。
中。古。よ。さ。り。そ。よ。易。い。も。備。成。い。く。と。備。を。其
あ。く。成。く。さ。路。もの。な。れ。い。面。目。成。さ。あ。て。基

人。い。い。さ。り。あ。れ。ば。人。と。殺。して。死。は。殉。ハ
あ。ひ。の。れ。漸。これ。より。あ。つ。る。あ。も。不。仁。あり
さ。と。あ。く。み。あ。ひ。く。も。人。い。ふ。縁。なく。殺
か。ん。と。い。ひ。い。り。さ。と。い。く。見。さ。ハ。備。成
作。り。始。人。と。さ。く。そ。不。仁。か。あ。つ。と
あ。く。さ。り。い。ち。ん。や。人。と。殺。して。死。は。殉。ハ
め。ん。と。や。秦。武。公。の。あ。つ。る。備。成。偶。也。
より。さ。と。い。ひ。死。せ。い。時。死。は。後。い。い。と
の。百。七。十。七。人。さ。う。中。は。秦。の。良。臣。奄。息。仲

其の死も殉^{シタ}成^ニなり。中^ニ人^ハ死^ハ何^カなり。吾^ハ意^ハの
と^ニ知^ルか^ニし^テも^ハ死^スなり。吾^ハ成^ニ不^レ仁^ニなり。
一。父母^ハ子^ニ死^ス然^レ成^ニ州^ニと^テ後^ニま^ニき^テの^ハか
ら^ニず^ニや。親^ハ名^ニ祖^ニも^ハ不^レ仁^ニなり。愚^ハ名^ニと^テなり^ハし
ひ^ハり^ハな^レれ^ハ。孝^ハ子^ニ慈^ニ孫^ニを^ハ人^ハの^ハか^ニり^ハ死^ス
北^ニ義^ハ乃^ニ死^ス成^ニせん^ハ志^ハあり^ハん^ハ長^ニなり^ハ。ひ^ハて^ハつ
く^ハ戒^スて^ハそ^ハの^ハと^ハなり^ハめ^ハり^ハ死^スなり^ハ。死^ス
なり^ハ。その^ハら^ハ秦^ハ始皇^ニ元年^ニなり^ハ。死^スり^ハ從^ニ
る^ハ死^スなり^ハ。一^ハ。陳^ハ仁^ニ改^ス也^ハ。志^ハあり^ハれ^ハた^ハけ

樂^ハ成^ニ代^ニなり^ハ。秦^ハ始皇^ニの^ハ死^スなり^ハ。時^ハも^ハ官^ハ女
殺^ス百人^ニなり^ハ。工^ハ匠^ハも^ハく^ハ死^スなり^ハ。後^ニ志^ハあり^ハ
一^ハ。今^ハも^ハそ^ハの^ハと^ハなり^ハ。魏^ハと^テい^ハふ^ハ志^ハあり^ハなり^ハ
死^ス不^レ仁^ニなり^ハ。死^スなり^ハ。一^ハ。秦^ハ乃^ニ後^ニ唯^ニ死^スなり^ハ
く^ハ己^ハの^ハも^ハ。死^スなり^ハ。一^ハ。魏^ハ武^ハ子^ハ。後^ニ妻^ハあり^ハ。子^ハなり^ハ。武^ハ子^ハ疾^スなり^ハ。時^ハも^ハ子^ハ
願^ハ子^ハ令^ハ一^ハて^ハ曰^ハ。魏^ハ武^ハ子^ハの^ハ子^ハめ^ハけ^ハ妻^ハと^テ人^ハり^ハ嫁^ス
せ^ハめ^ハ。疾^スなり^ハ。一^ハ。時^ハも^ハなり^ハ。又^ハ願^ハ子^ハ令^ハ一^ハ
て^ハめ^ハの^ハ妻^ハと^テ一^ハて^ハ者^ハも^ハ殉^スなり^ハ。め^ハめ^ハ。武^ハ子

卒すふみ及く。顯キョウかの又れあどて人よ
 嫁カせしめていよく。疾ヤミの甚しむ時ハ。心乱
 せり。それハ。後討シタルの命ハ。後入也。後リ
 顯戰場キョウサツヤウよ。かて強敵ガウテキ杜回トクイと云ふものよ。あひそ
 命危メウキり。いふ。む人來てこれと助タケく。その
 難ナシ派ハのつこ。むるのこ。あひ。後入シタル杜回トクイと
 付ツれく。武名とあげ。此かのむ人ハ。あれ又
 かり。いふ。や。けり。あひ。人の子。いふ
 ものハ。魏キ驍ニョウ顯キョウは。新入シンジュをたふ。か

織オリモノ

えねと習ふ也 田十

黃帝クワテイ内傳ナイデンと云。帝テイとて。小室コシムちひきりたまふ
 醫サニ神シン絲絲サイシ故コく。織オリモノ紐ニウ切キは。糸イト一イチむ。これ
 一イチとて。織オリモノとむ。いふ。うに。あひく。廣ヒロ免メン
 多タふ。いふ。も。あひ。りて。黃帝クワテイとて。廣ヒロ
 多タふ。いふ。も。あひ。りて。

と紙をてそく^{コチカ}ハ身にとり。毫^{トツ}くハおにぬて
うにかぬく^{ニヨケイ}虫契を他傳。

文字
四十二

淮南子曰。藝類書と作し。時。天粟氏より。民。

氏ニ喜ニ秋ニ云ニ。蒼オウ頤ケツとレ作ル。注ル。蒼サウ頤ケツとレ云ニ。

とある。鳥^{トリ}の^{アト}跡をうめ^{オラツ}。倣^{オラツ}ていそく^{オラツ}と文^{オラツ}字^{オラツ}と化^{オラツ}

於。黃帝内傳云。帝^{テイ}璽^ニを^{ユウ}とあり。因^{ヨシ}て^{サウ}纂

類^{ケツ}は命^{メイ}して。み字と化てひそぎ箋紙裏に帝。

五世紀の云々サウケツトリ蒼楸アト多岐ハジメ乃ふいといりて始と

ふ字をゆる。李リ濤カンが蒙モウ求ギウの玄エ蒼サウ頡ケツ々ケツ炎帝

乃下^{カニ}居^ニ多^{トリ}也^ノを^{アト}多^{カニ}く^ニ以^テ文^モ字^ジを^シ作^スり。晋^{シン}衛^{エイ}

恒クシろロゑエ。ひヒり
 英クウ帝テイ制セイ式シキ創ハジめメ物モノ紙シ造ツクるル。其ソ論ロン

茶顔と云ふのあり。始く古紙作りの爲れ^テた。

冬て
思と
與せり。
世な
めと
又云。
沮
誦
女
君

テツ
額書を此方
ソウナク
宋衷云。皆
武帝の史也。
此乃
スセツ
粉紙よりて

これを考^{カンカフ}へ^ジ字ハ英帝乃時^{サウケツ}著^シ顔より始^{ハジメ}

ゆゑなり。字源はハ大異の時始と云字

わりとろり

書八體 四十四

古文ハ英帝の史蒼顔作。大篆ハ周宣王史

史籀作。小篆ハ秦丞相李斯作。八分ハ秦羽人

上谷王次仲作。隸書ハ秦獄吏下邳程邈作

今の真書也。隸氏筆業よ云。字。飛帛ハ漢中郎

將蔡邕作。行書後漢潁川の劉徳升作。

章草ハ漢英門令史史游作又草書王右軍が

云。先杜氏より出。名ハ作度といひ。この

也。趙壹が云。秦の末は具。或人の云。漢の時。上

作。後漢草。此ハ秦帝の好む所よりて章

草と名づく。韋誕これを草聖と云。漢書

よりこれあり。作ハ此と云。と云。此ハ

よハ如漢の作といふ

今按と云。事ハ紀原ハ云。此ハ

おろり。此ハ宋張懷瓘が書断より

云。草書ハ後漢散士張白英が作。此ハ梁武帝

云。此ハ伏。此ハ秦の時。此ハ

侯がのく。長氏。此ハ羽徽が作。此ハ

四十又

蒼顏古文

大集

小篆

八分

隸書

飛帛

行書

草書

四十六

易繫辭は云。庖犧氏は天下を治るに時。始て八
 卦を作く。以て神の徳を通して。以て万物
 の情を類と。史記にも云。又王褒は里子因道ある
 時。易の八卦を益して六十四卦を作する

アラハスニヨラ
著書
四十七

史記レキの大史タイレコウ云コソグ自叙シ子シヨ。むろー西伯セイハクよりユラ養ユラ里リよりスチチアラハス周易シウイキを演ゲとシり。乞スチチアラハス則チ其キ玉タマ乃ナもモあアなり

史
事を記し
史と云
冊八

呂氏春秋リョウシ云ユン秋シュウ子玄コノ蒼頡史サウケツシと修ス之ヲ。帝テイ王ワウ世セイ記キ子玄コノ莫モクハフ

帝テイ比ヒ時ジ史シ氏シ造ゾウ其ソノ所コロ

切字 カヘ、ジラ
四十九

筆^{ヒツ}徒^{テン}の云^云字^シと切^カとゆ^ゆ。とや西域^{セイイキ}より出^{イデ}て
 王^{カン}漢^{ヒト}人の字^シ代^シりたり。讀^{ヨム}ふ某^{ソレシ}字^シ代^{ゴト}り如^{コト}
 一^一と云^云未^イ反^マ切^{ハン}と用^{セツ}ひと。然^然道^道た古^コ語^ゴなり。と
 て日^日二^二部^部と合^合て一^一字^字とす所^所あり。不^フ可^カと
 返^ハと一^一。如^{シヨシ}色^色と爾^ニと一^一。而^レ已^イと再^ニと一^一。之^シ

手と依とす。類西玉の二合多小似。り。色う
あふらくハ字以切の弟也。好古素とるに何不を蓋
し。うをうハさかたき。

音歌 五十

平上と去。天竺乃梵字中玉。り。入。及て。も字。窮
密。かり。入。及て。も字。窮

詩 五十一

樂。去。よ。云。伏羲の樂。以。立。基。と。云。祚。農。乃。樂
と。下。謀。と。云。夫。樂。乃。不。章。あり。樂。乃。章。と。云。

侍。と。依。り。古。今。系。始。り。ハ。又。云。の。侍。ハ。漢。乃。李。陵。と。り
始。乃。六。云。の。侍。ハ。各。永。始。と。依。り。乃。時。乃。人
七。云。乃。侍。ハ。漢。武。帝。相。梁。臺。乃。と。あり。て。程。氏。と
して。七。云。乃。侍。ハ。漢。武。帝。相。梁。臺。乃。と。あり。て。程。氏。と
に。む。と。依。り。好。古。素。と。る。に。何。不。を。蓋。し。う。を。う。ハ。さ。か。た。き。

聯句

漢武帝相梁臺。あり。て。七。云。乃。聯句。と。作。と。り。め

まひりてありて梁代何遜と成

唱和 又十三

帝舜と皋陶と。麋と歌と。人。お唱和れし

一見なり

次歌 又十四

延年。謝元暉。たよ清江化てお唱和と。皆と

歌と。はは。次唐元稹と。春深二十首と。他

詩。並。家。花。車。斜。の。字。と。用。て。そ。歌。と。は。白

居易。劉禹錫。これと。わす。あ。又。そ。歌。と。は。白

令狐楚。清江。わ。と。あ。又。そ。歌。と。は。白

詞賦 又十五

陳梁の世。古。代。薦。向。は。詞。賦。を。南。人。河。賦。り

て人をと。あ。梁。陳。より。あ。は

印板 又十六

掌。漢。の。云。古。籍。と。板。下。と。あ。唐。の。時。人

代。の。時。人。と。あ。唐。の。時。人。と。あ。唐。の。時。人

又。漢。の。時。人。と。あ。唐。の。時。人。と。あ。唐。の。時。人

據云云。周の成侯。と云ふ。賢志と天子。又貢
 て。これを大学。又外。又内。を造士と云。大樂正。
 造士。代中。の秀。き。り。もの。成。備。して。以。て。以。て。主
 是。司。馬。又。外。と。内。を。進。士。と。云。こ。も。の。礼。記
 の。多。制。又。周。成。侯。の。成。侯。と。云。り。と。れ
 進。士。代。始。也。據。云。云。又。い。く。隋。大。業。の。中。始
 て。を。士。の。科。と。云。此。科。と。後。の。始。也。
 貢。士。六。十。八
 周。礼。大。司。徒。邦。外。の。り。賢。と。云。と。云。ひ。主。は。舉

とあり。又貢舉の始也。

附 孔子廟 二十九

後漢書。鍾離。と云。が。傳。也。鍾離。と。魯。の。お。と。か
 里。と。云。り。孔子。の。廟。堂。と。云。り。孔子。の。唐
 礼。樂。志。と。云。武。德。唐。高。祖。二。年。合。東。云。六。始。て。云
 學。と。詔。して。孔子。の。廟。成。立。貞。觀。四。年。唐。大
 年。又。別。縣。と。詔。して。皆。孔子。廟。成。立。と。云。心
 又。い。く。宋。の。總。章。二。年。と。天。下。と。詔。して
 皆。孔子。の。廟。成。立。宋。約。と。れ。り。と。云。事物。紀。原

漢高祖魯國を以て大宰とす孔子を尊ぶ。

元方世を仰とす所始也古今未始

謚孔子 六十

漢成帝の時孔子より謚して褒成宣尼とす。

後世孔子より謚を以てす。元方始也。

中華事始卷之四終



